

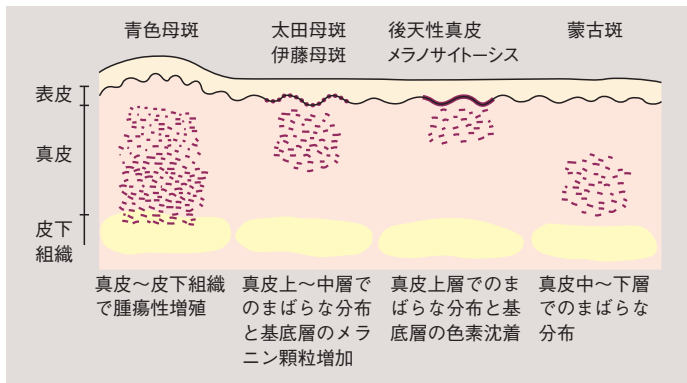


図 20.10 真皮メラノサイト系母斑の分類とメラノサイトの分布様式

治療

外科的切除。悪性化はないが、悪性黒色腫との鑑別を慎重に行う必要がある。

5. ^{クラーク}Clark 母斑 Clark nevus

同義語：異型母斑 (dysplastic nevus)，非典型母斑 (atypical nevus)

思春期前後から生じる。直径 5 mm 以上の斑状ないし扁平にわずかに隆起した母斑細胞母斑であるが、①不整形、②境界不明瞭、③濃淡差のある色調、のうち 2 つ以上の特徴を有するものをいう。基本的には良性疾患であり、加齢とともに消退する。病理組織学的に複合母斑ないし境界母斑の所見を呈する。悪性黒色腫との鑑別および発症の可能性があり、ダーモスコピーを用いた経過観察が必要である。多発性に Clark 母斑を生じ家系内にも同様の臨床像を呈する場合には悪性黒色腫のリスクが高く、異型母斑症候群 (dysplastic nevus syndrome, 常染色体優性遺伝) と呼ばれる。

▶ ^{サットン}Sutton 母斑→ 16 章 p.307 参照。

b. 真皮メラノサイト系母斑 dermal melanocytic nevi

真皮メラノサイトが増殖する疾患群としては、^{せいしよく}青色母斑、蒙古斑や太田母斑などがあり (図 20.1)，疾患によって細胞の分布と臨床像が異なる (図 20.10)。

図 20.11 青色母斑 (blue nevus)

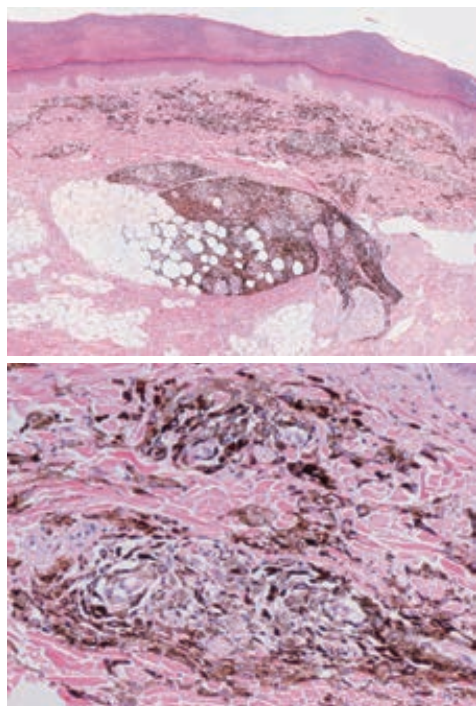


図 20.12 青色母斑の病理組織像



図 20.13① 太田母斑 (nevus of Ota)

1. 青色母斑 せいしよく blue nevus

Essence

- 真皮にメラノサイトが密に増殖した結果生じる扁平～やや隆起した青色結節。
- 多くは幼児期までに出現し，四肢，頭部や殿部に好発。

症状

日本では成人の約3%でみられる。通常1 cm 以下の青色ないし黒色調の硬い小結節を形成する。扁平なものや腫瘤状になるものも存在する（図 20.11）。一般に単発性であり，発育が緩徐である。四肢や頭部，顔面のほか，背部，殿部などに好発する。直径1 cm を越え，隆起の強い不整形局面を形成することがあり，細胞増殖型青色母斑（cellular blue nevus）と呼ばれる。

病理所見・診断

真皮中層を中心に，メラニン産生能の高い真皮メラノサイト（dermal melanocyte：青色母斑細胞）の腫瘍性増殖が認められる（図 20.12）。細胞増殖型青色母斑では，メラニン産生能が低く Schwann 細胞に類似した紡錘形細胞を混じる。悪性黒色腫との鑑別を要する。

治療・予後

切除する場合は病巣すべてを取り残しのないように行う。悪性化する場合もあるため経過を観察する。

2. 太田母斑 nevus of Ota ★

同義語：眼上顎褐青色母斑（nevus fuscoceruleus ophthalmomaxillaris）

Essence

- 黄色人種の乳児あるいは思春期女子に好発し，三叉神経第1,2 枝領域に片側性の淡青褐色斑と眼球メラノーシスを生じる。
- 真皮メラノサイトの増殖とメラニンの基底層への沈着による。
- 悪性化は認めないが，自然消退もない。レーザー療法が著効する。